

はじめに

本調査は、当金庫のお取引先のご協力により昭和50年7月から実施しているものです。四半期ごとに調査を行い、D.I.を中心として分析を行っています。

なお、当金庫では6種類の一般業種のほか、地域金融機関として地場産業に重点を置いた調査を行い、次の8業種を選定しております。

- ① 縫製業
- ② 電子部品・半導体製造業
- ③ 漆器業
- ④ 木材業
- ⑤ 建具業
- ⑥ 織布業
- ⑦ 繊維・雑品業
- ⑧ 観光業

今回の調査は、令和2年7月～9月期の業況実績と、令和2年10月～12月期の見通しについて、管内679先の事業所を対象に実施いたしました。

些かなりとも経営のお役に立てていただければ幸いです。

※D.I. (Diffusion Index) 拡張指数

不変部分を除いて増加（上昇）したとする企業と、減少（下降）したとする企業の全体に占める構成比のどちらの力が強いかを比べて、時系列的に景気のベクトルの傾向を見る方法です。

**** 目次 ****

1. 概況	1
2. 地区内の業況D.I.推移	2
3. 一般業種の業況	
(1) 製造業	3
(2) 卸売業	4
(3) 小売業	5
(4) サービス業	6
(5) 建設業	7
(6) 不動産業	8
4. 地場産業の業況	
(1) 能登地区の縫製業	9
(2) 能登地区の電子部品 ・半導体製造業	10
(3) 能登地区の漆器業	11
(4) 能登地区の木材業	12
(5) 能登地区の建具業	13
(6) 能登地区の織布業	14
(7) 能登地区の繊維・雑品業	15
(8) 能登地区の観光業	16
5. 経済指標	17～18
6. 特別調査	
新型コロナウイルスの感染拡大を受けた中小企業の対応について	19

(注) 令和2年7月～9月を今期、令和2年4月～6月を前期、令和2年10月～12月を来期という、以下同じ。

調査対象企業の業種別先数および有効回答数

	依頼先	有効回答数	回答率 (%)	構成比 (%)
製造業	203	190	93.6	30.2
卸売業	29	28	96.6	4.5
小売業	200	185	92.5	29.5
サービス業	121	116	95.9	18.5
建設業	97	83	85.6	13.2
不動産業	29	26	89.7	4.1
合計	679	628	92.5	100.0

◇◆◇ 概 況 ◇◆◇

《 2020 年 7 月～9 月》

新型コロナウイルスの感染は現在も収束せず、テレビや新聞では連日、新たな感染者数・死亡者数についての報道が発表され、全世界で大きな影響を与え続けている。三密を避け、感染拡大を防ぐため実施された休業要請や様々な催事・行事の中止・延期による経済的打撃は計り知れず、未だに沈静化の時期は見えていない。

こうした中、当金庫営業地区の今期（令和2年7月～9月）業況D.I.は、△51.1（前期△40.0）と悪化を示した。

地区内全般では、前期に比べ新型コロナウイルス感染症の影響はやや和らいだと言え、製造業以外のすべての業種で業況D.I.は回復した。行動自粛・営業時間短縮の緩和やGo To キャンペーン等の効果が出てきており、全業種において売上・収益は回復している。

地場産業では、観光業、電子部品・半導体製造業が回復を示した。木材業、漆器業は横這いとなり、建具業、繊維・雑品業が悪化、縫製業、織布業は大幅な悪化を示した。業況が回復した業種でもコロナ禍以前の水準には回復していないことから、コロナの影響で悪化したものが回復しただけと捉えているとうかがえる。業況が回復したと回答した先が、売上・収益が回復したと回答した先に比べて少なかったこと、製造業界で景気の後退感が払拭できておらず業況が悪化したとの回答が多かったためこの結果になったと考えられる。

来期（令和2年10月～12月）の地区内における業況D.I.は、△47.6と横這いを予想している。

地区内全般では低迷していた製造業、卸売業、建設業がGo To イート等による個人消費の増加や公共工事の増加による回復を予想。小売業、サービス業、不動産業は売上・収益は回復を予想するが、業況は横這いを予想。全ての業種において最悪の状況は脱するが厳しい現状が続くと見ているようである。

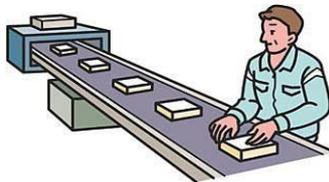
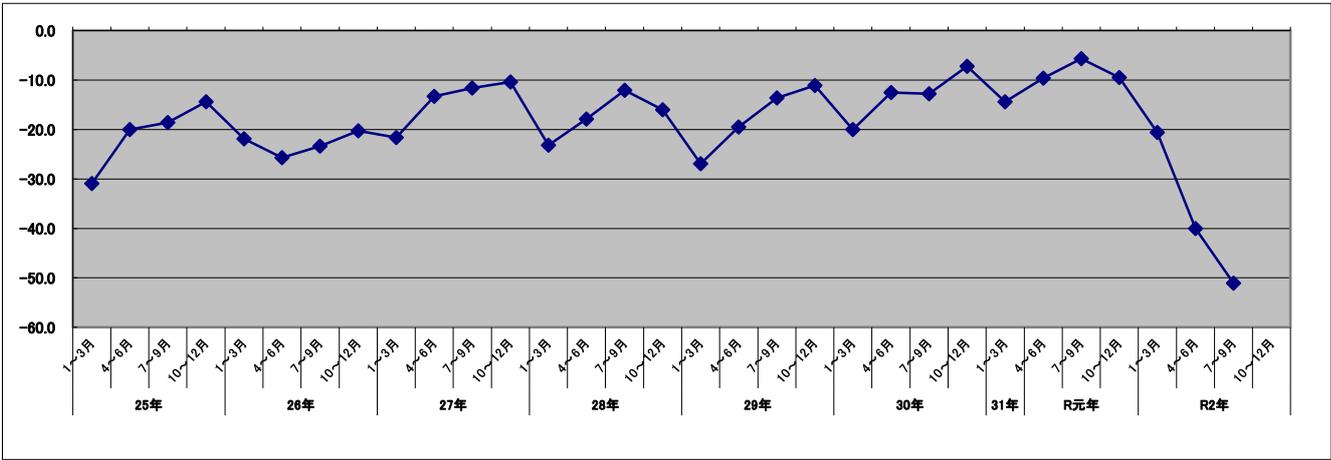
地場産業では、個人消費の増加により最低水準から回復するとの見通しから建具業、織布業、繊維・雑品業が改善を予想するが、コロナ禍以前の水準にはまだ遠い。製造業、電子部品・半導体製造業、漆器業、木材業については新型コロナウイルスの先行きが不透明であることから、横這いを予想している。観光業については国外観光客のインバウンドが見込めないこと、冬の時期にかけて国内観光客も減少するとの見込みから悪化を予想している。

来期、インフルエンザの流行が新型コロナウイルスの感染と重なることが懸念されている。症状が似通っており、検査外来の受入態勢や、受入病院の病床の確保等、課題は多い。

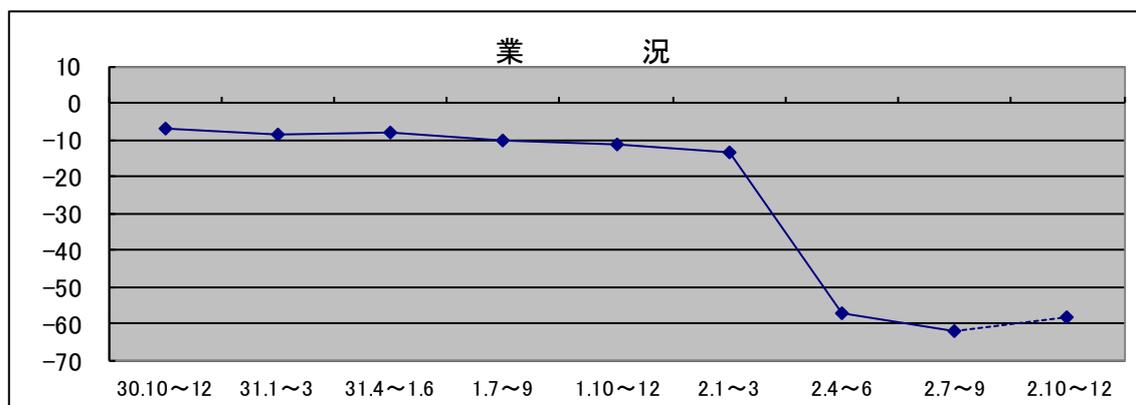
行動自粛が緩和されたため、県を跨いで観光に赴く人の動きが増えており、また時折クラスター感染が発生している。政府発表では新型コロナウイルスのワクチンを令和3年半までに全国民に提供できる数量を確保することを目指しており、今後の経済の行く先と生活は全てワクチンと特効薬の開発にかかっている。

地区内の業況D. I. 推移

年	期間	業況D. I.	年	期間	業況D. I.
H25年	1~3月	△ 30.9	H29年	1~3月	△ 26.9
	4~6月	△ 20.0		4~6月	△ 19.5
	7~9月	△ 18.6		7~9月	△ 13.6
	10~12月	△ 14.4		10~12月	△ 11.1
H26年	1~3月	△ 21.9	H30年	1~3月	△ 20.0
	4~6月	△ 25.7		4~6月	△ 12.5
	7~9月	△ 23.4		7~9月	△ 12.8
	10~12月	△ 20.3		10~12月	△ 7.2
H27年	1~3月	△ 21.6	H31年	1~3月	△ 14.4
	4~6月	△ 13.3	R元年	4~6月	△ 9.6
	7~9月	△ 11.6		7~9月	△ 5.7
	10~12月	△ 10.4		10~12月	△ 9.5
H28年	1~3月	△ 23.2	R2年	1~3月	△ 20.6
	4~6月	△ 17.9		4~6月	△ 40.0
	7~9月	△ 12.1		7~9月	△ 51.1
	10~12月	△ 16.0		10~12月	



製造業



【概 況】

今期（R 2.7月～9月）の業況D.I.は前期より悪化し△62.1となった。電子部品・半導体製造を除き、ほぼすべての業種に悪化の回答が多く見られた。全体的に受注はやや回復し、売上・収益は上昇しているが、新型コロナウイルスが沈静化せず第二波・第三波の影響が出てくる可能性が高い事、設備投資計画の中止や延期を行う企業が増加した事による景気の後退感が強いことが悪化回答の原因と考えられる。

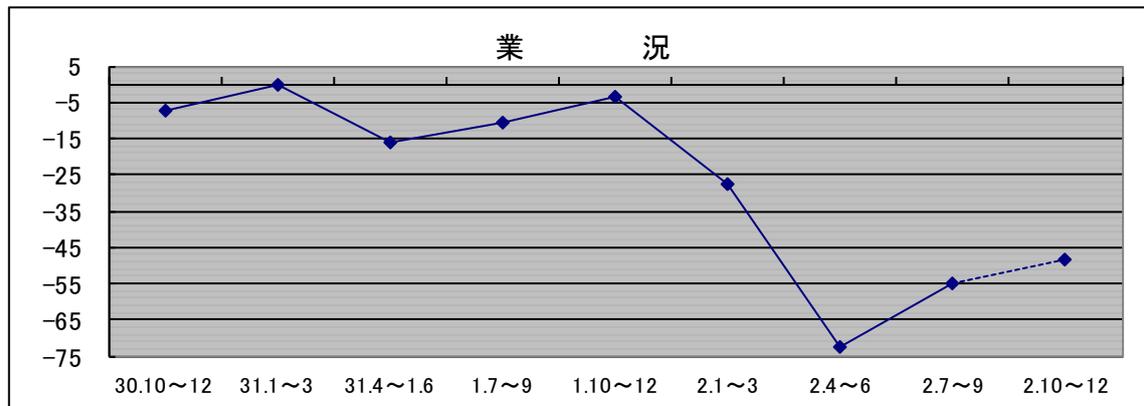
来期（R 2.10月～12月）の業況D.I.は△58.4と回復を予想するが、依然、厳しい状況が続くという見方が多い。

《業績判断D.I.の推移》

	平成30年	平成31年（令和1年）				令和2年				見通し
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
業 況	△7.0	△8.7	△8.2	△10.4	△11.3	△13.7	△57.4	△62.1	△58.4	
売 上	△6.0	△12.8	△4.1	△5.2	△3.6	△15.8	△61.6	△40.5	△24.2	
収 益	△8.5	△12.2	△4.6	△7.8	△8.8	△16.3	△59.5	△38.9	△23.2	
資金繰り	△4.5	△2.6	△2.0	△9.8	△11.3	△8.4	△37.4	△19.5	△15.3	
人 手	△11.6	△11.8	△11.2	△11.9	△8.2	△6.8	△2.1	1.6	0.0	
設 備	△3.5	△4.1	△6.6	△6.2	△5.2	△3.7	△5.3	△4.7	△100.0	

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞・減少	25.5%	提携先を見つける	28.5%
輸入製品との競争の激化	19.9%	販路を広げる	19.8%
地場産業の衰退	7.7%	経費を節減する	19.0%

卸売業



【概 況】

今期（R 2.7月～9月）業況D.I.は△55.2（前期△72.4）と改善を示した。少しずつ個人消費が戻ってきていることや、コロナ関連で一部業績を伸ばす企業が出てきている。反面、衣料品・木材などは個人消費の低下に伴い厳しいとの回答が多く、卸売業内でも取扱い製品によって状況が異なる結果になった。

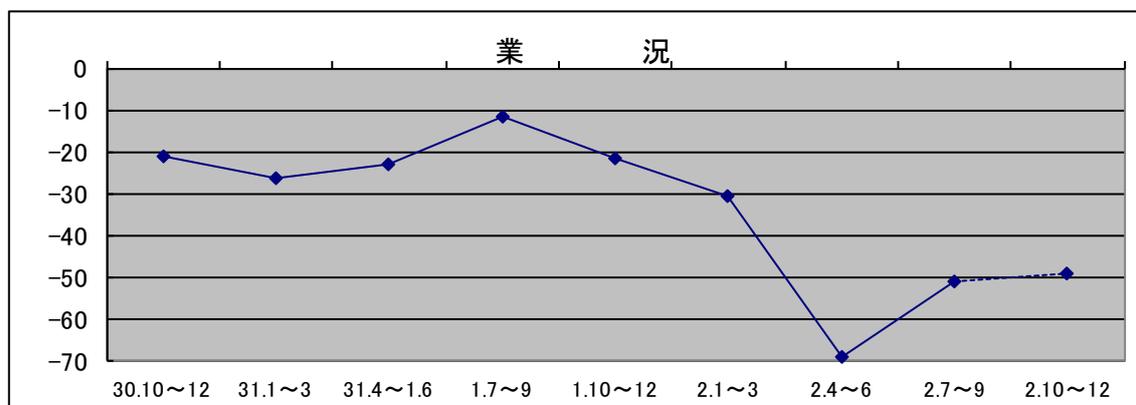
来期（R 2.10月～12月）の卸売業全体の見通しは、△48.3と若干の改善を予想するが、依然厳しい状況が続くと予想している。

《業績判断D.I.の推移》

	平成30年	平成31年（令和1年）				令和2年				見通し
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
業 況	△7.1	0.0	△16.1	△10.7	△3.4	△27.6	△72.4	△55.2	△48.3	
売 上	△3.6	△3.3	△12.9	△21.4	△3.4	△27.6	△65.5	△51.7	△37.9	
収 益	△10.7	△10.0	△19.4	△17.9	0.0	△27.6	△65.5	△48.3	△37.9	
資金繰り	0.0	△6.7	△9.7	△14.3	△6.9	△6.9	△51.7	△24.1	△20.7	
仕入価格	0.0	6.7	△3.2	0.0	3.4	6.9	0.0	△3.4	0.0	
在 庫	△7.1	0.0	△3.2	3.6	3.4	0.0	△3.4	△6.9	△6.9	

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞・減少	19.4%	提携先を見つける	34.8%
同業者間の競争の激化	19.4%	経費を節減する	27.5%
取引先の減少	16.1%	販路を広げる	20.3%

小売業



【概況】

今期（R 2.7月～9月）の業況D.I.は△51.1（前期△69.1）と回復を示した。新型コロナウイルス感染症による影響から、食料品、飲食関係は特に「Go To キャンペーン」の効果もあり、業況は改善されてきているとの回答が多かったが、衣料品関係はやや厳しく、呉服品・家電品・化粧品・貴金属・車などについては消費者が出費を抑える傾向にあり、厳しい状況であった。

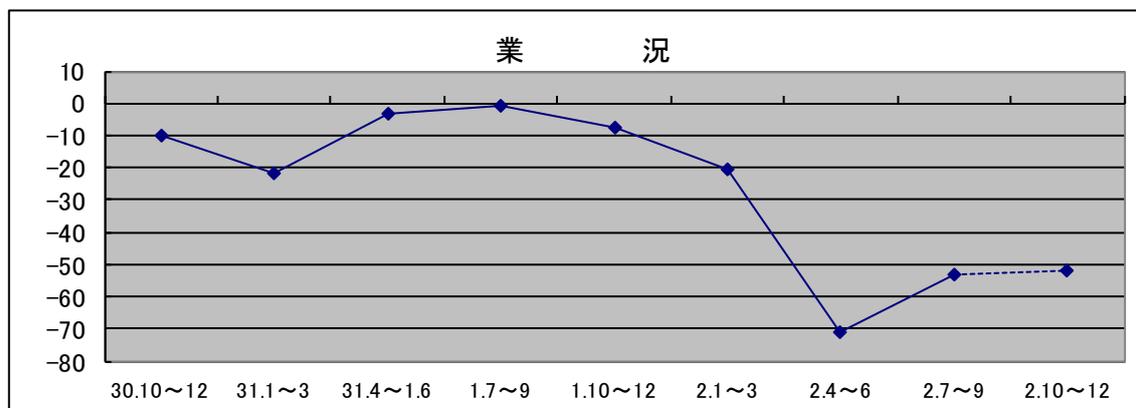
来期（R 2.10月～12月）業況D.I.については△49.5と僅かながら改善を予想するが、新型コロナウイルスの先行きが分からない状況が続いており、消費促進のため、地方自治体の商品券の発行や公的支援制度等に対する期待が大きい。

《業績判断D.I.の推移》

	平成30年	平成31年（令和1年）				令和2年				見通し
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
業況	△21.2	△26.4	△22.9	△11.6	△21.5	△30.5	△69.1	△51.1	△49.5	
売上	△11.1	△16.1	△15.4	△2.1	△16.9	△27.8	△63.9	△25.5	△32.6	
収益	△11.1	△16.6	△15.4	△2.6	△16.9	△27.3	△63.9	△23.4	△31.0	
資金繰り	△20.2	△16.6	△12.9	△11.1	△7.7	△14.4	△25.1	△12.0	△11.4	
販売価格	△2.0	△1.6	4.0	0.0	11.8	△4.3	△9.9	△0.5	△3.3	
在庫	3.0	5.2	1.0	5.8	2.6	4.3	3.7	1.6	0.0	

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞・減少	22.2%	仕入先を開拓・選別する	32.4%
地価の高騰	14.1%	経費を節減する	22.9%
利幅の縮小	13.7%	宣伝。広告を強化する	12.4%

サービス業



【概 況】

今期（R 2.7～9月）業況D.I.は△53.4（前期△71.2）と回復を示した。前期、新型コロナウイルスの影響により人の動きが制限されたことが業況悪化の最大の原因であったが「Go To キャンペーン」がサービス業に回復を促した結果である。

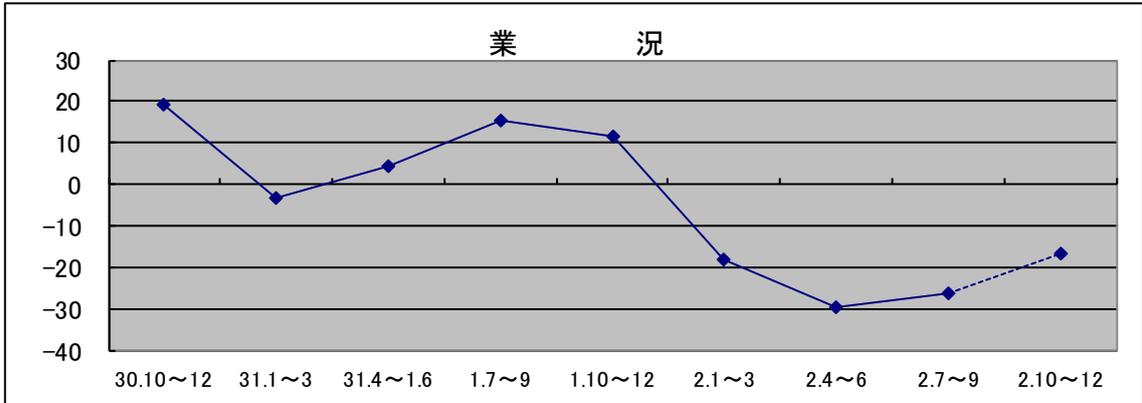
来期（R 2.10月～12月）のサービス業は、「Go To キャンペーン」の継続やステイケーションで近隣ホテル等宿泊施設利用への期待が寄せられる。しかし海外からの渡航者が来られないことやウイルス拡大の懸念があるため人の集まる行事や催事が中止・自粛になっていること、収束時期が未定であることから、業況D.I.は△51.7とほぼ横這いでの推移を予想する。

《業績判断D.I.の推移》

	平成30年	平成31年(令和1年)				令和2年			見通し
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
業 況	△9.9	△21.7	△3.4	△1.0	△7.8	△20.5	△71.2	△53.4	△51.7
売 上	△17.4	△20.8	△4.2	△2.0	△9.5	△23.9	△70.3	△35.3	△38.8
収 益	△12.4	△19.3	△5.9	△3.0	△11.2	△23.9	△68.5	△34.5	△37.1
資金繰り	△5.8	△13.3	△13.6	△6.9	△10.3	△16.2	△39.6	△20.7	△18.1
料金価格	△1.7	0.0	5.9	2.0	5.2	1.7	△6.3	△1.7	△2.6
設 備	△5.8	△8.3	△5.1	△5.9	△5.2	△3.4	△1.8	△1.7	0.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
利幅の縮小	20.7%	提携先を見つける	33.5%
売上の停滞。減少	22.6%	経費を節減する	18.9%
同業者間の競争の激化	13.6%	販路を広げる	16.8%

建設業



【概況】

前期は今期（R 2.7月～9月）の業況D.I.は悪化するとの予想をしたが、北陸新幹線関連工事や、公共工事に動きがあったことにより△26.5（前期△29.9）と回復を示し、業況D.I.の他五項目全て改善を示した。しかし民間工事や一般住宅の建設は少なく、景気の低迷感が払拭されていないため回復が待たれる。

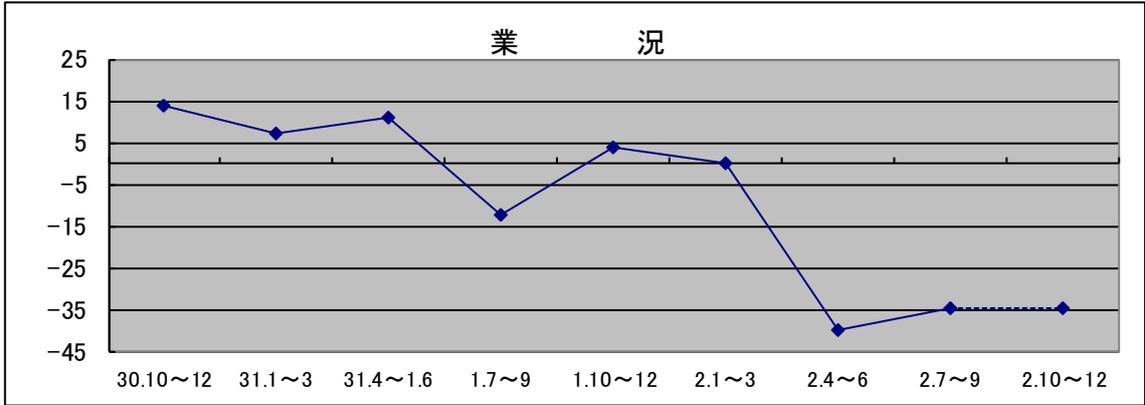
年末に向けた公共工事への期待から、来期（R 2.10月～12月）の業況D.I.は△16.9と回復を予想している。

《業績判断D.I.の推移》

	平成30年	平成31年(令和1年)			令和2年			見通し	
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
業況	19.4	△3.2	4.2	15.4	11.7	△18.2	△29.9	△26.5	△16.9
売上	18.3	△10.8	6.3	15.4	13.8	△20.5	△46.0	△15.7	△12.0
収益	11.8	△9.7	2.1	9.9	10.6	△11.4	△43.7	△10.8	△8.4
資金繰り	3.2	0.0	2.1	△2.2	2.1	△13.6	△24.1	△6.0	△7.2
請負価格	2.2	6.5	△4.2	1.1	11.7	△4.5	△19.5	△3.6	△3.6
人手	△20.4	△11.8	△23.2	△22.0	△25.5	△12.5	△11.5	△7.2	△12.0

経営上の問題点		当面の重点施策(経営のポイント)	
売上の停滞・減少	21.6%	技術力を高める	33.2%
同業者間の競争の激化	22.2%	経費を節減する	20.4%
人件費以外の経費の増加	9.2%	販路を広げる	13.2%

不動産業



【概況】

今期（R 2.7月～9月）の業況D.I.は△34.6（前期40.0）と回復を示した。

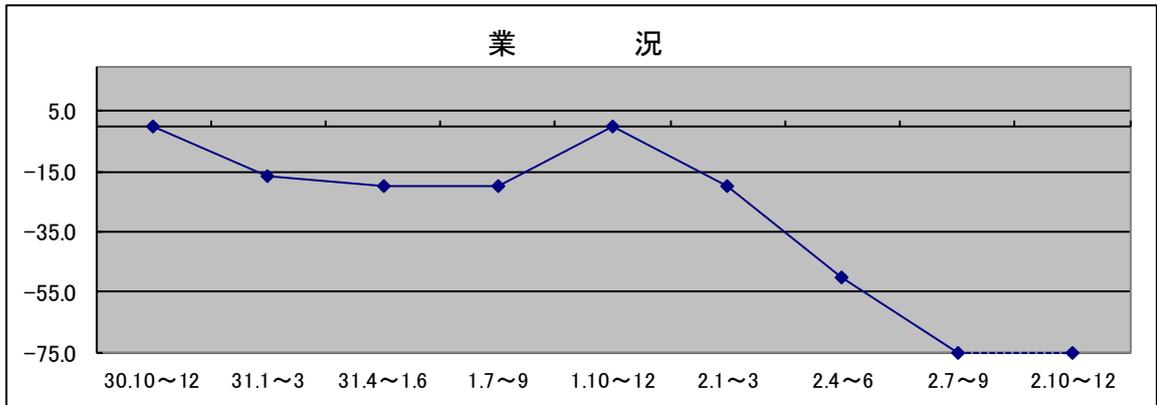
来期（R 2.10月～12月）の業況D.I.は△34.6と横這いを予想しているが、リーマンショック時に比べて不動産市場への悪影響は早期に現れており、賃貸物件の稼働率の低下が当分の間続く見通しや、戸建て新築など高値のものが売れないなど、今回のショックは大きいことから依然予断を許さない状況が続く。

《業績判断D.I.の推移》

	平成30年	平成31年（令和1年）				令和2年				見通し
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
業況	13.8	7.1	11.1	△12.2	3.7	0.0	△40.0	△34.6	△34.6	
売上	13.8	7.1	7.4	△4.9	3.7	3.8	△36.0	△34.6	△23.1	
収益	10.3	3.6	7.4	△7.3	3.7	3.8	△36.0	△34.6	△26.9	
資金繰り	△6.9	△14.3	3.7	△7.3	3.7	△7.7	△24.0	△7.7	△7.7	
販売価格	10.3	3.6	14.8	9.8	11.1	3.8	△4.0	△19.2	△7.7	
在庫	△6.9	△18.5	0.0	2.4	△3.7	0.0	△8.0	△3.8	△3.8	

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞。減少	23.4%	宣伝。広告を強化する	18.2%
大企業との競争の激化	19.1%	経費を節減する	16.7%
同業者間の競争の激化	19.1%	情報力を強化する	16.7%

能登地区の縫製業



【概 況】

前期（R 2.4月～6月）に比べ今期（R 2.7月～9月）の業況D.I.は△75.0と前期（R 2.4月～6月）の△50.0に比べ更なる悪化を示した。受注は回復傾向にあり売上・収益ともに回復基調であるが、資金繰りは横這い、人手は再び不足した状況。数値は上向いたが、あくまでもコロナウイルスの影響を一番受けた時期に比べてのことであり、回復したとは捉えていないとかがえる。

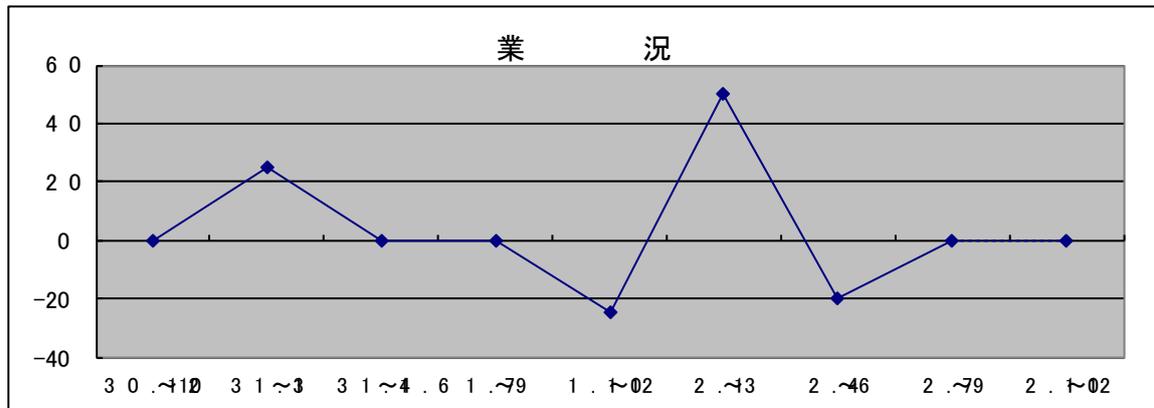
来期（R 2.10月～12月）は例年であれば繁忙期となるが業況D.I.は低水準での横這いを予想している。依然コロナウイルスの経済的影響が考えられ、先行きは不透明である。

《業績判断D.I.の推移》

	平成30年	平成31年（令和1年）				令和2年			見通し
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
業 況	0.0	△16.7	△20.0	△20.0	0.0	△20.0	△50.0	△75.0	△75.0
売 上	0.0	0.0	0.0	△40.0	20.0	△20.0	△75.0	△25.0	△25.0
収 益	20.0	0.0	△20.0	△40.0	0.0	△20.0	△75.0	△25.0	△25.0
資金繰り	0.0	0.0	△20.0	0.0	0.0	0.0	△25.0	△25.0	△25.0
人 手	△40.0	△33.3	△20.0	△20.0	0.0	△20.0	0.0	△25.0	△25.0
設 備	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	△20.0	△25.0	0.0	0.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
輸入製品との競争の激化	16.7%	提携先を見つける	18.8%
売上の停滞・減少	16.7%	経費を節減する	18.8%
人件費の増加	16.7%	工場・機械を増設・移転する	18.8%

能登地区の電子部品・半導体製造業



【概況】

今期（R2.7月～9月）業況D.I.については0.0（前期△20.0）と前年同期まで回復した。来期（R2.10月～12月）は車のマイナーチェンジ・フルモデルチェンジによる電装部品の需要が控えていることから見通しは売上・収益ともに上昇すると予想しているが、景気の上向きが実感できない事から、業況D.I.は横這いの予想をしている。

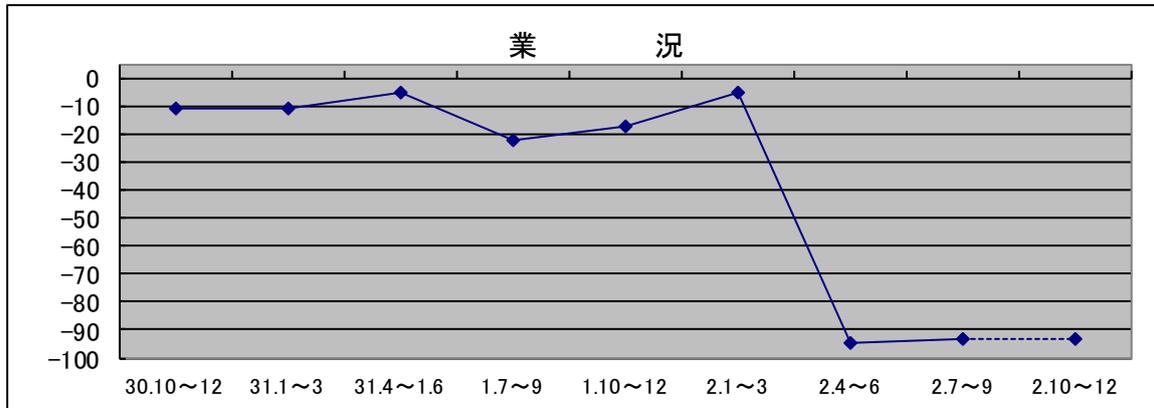
依然コロナウイルスの感染は収まっておらず、第二波・第三波の影響による需要の落ち込みや部品供給停止による製造の遅れなどによって状況の悪化も懸念されるため、楽観視はできない。

《業績判断D.I.の推移》

	平成30年	平成31年（令和1年）				令和2年				見通し
	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	
業況	0.0	25.0	0.0	0.0	△25.0	50.0	△20.0	0.0	0.0	
売上	0.0	0.0	△33.3	△100.0	25.0	50.0	△20.0	0.0	33.3	
収益	0.0	25.0	0.0	△100.0	0.0	50.0	△40.0	0.0	33.3	
資金繰り	0.0	0.0	0.0	△50.0	△25.0	0.0	△40.0	△33.3	△33.3	
人手	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	△50.0	△20.0	0.0	0.0	
設備	0.0	0.0	0.0	0.0	△25.0	0.0	0.0	△33.3	0.0	

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
輸入製品との競争の激化	28.6%	提携先を見つける	16.7%
売上の停滞・減少	14.3%	情報力を強化する	16.7%
人手不足	14.3%	経費を節減する	16.7%

能登地区の漆器業



【概況】

国内の観光客については「Go To キャンペーン」等の効果で人の動きが戻ってきており、百貨店等にも徐々に動きが出てきたことによつて売上・収益・資金繰りについては前期に比べて回復している。しかし観光シーズンにあたる今期、各イベントが軒並み中止になったこと、海外観光客が入国制限のため来ることができない状況が続いていることから、例年の水準まで回復しておらず業況は厳しい。

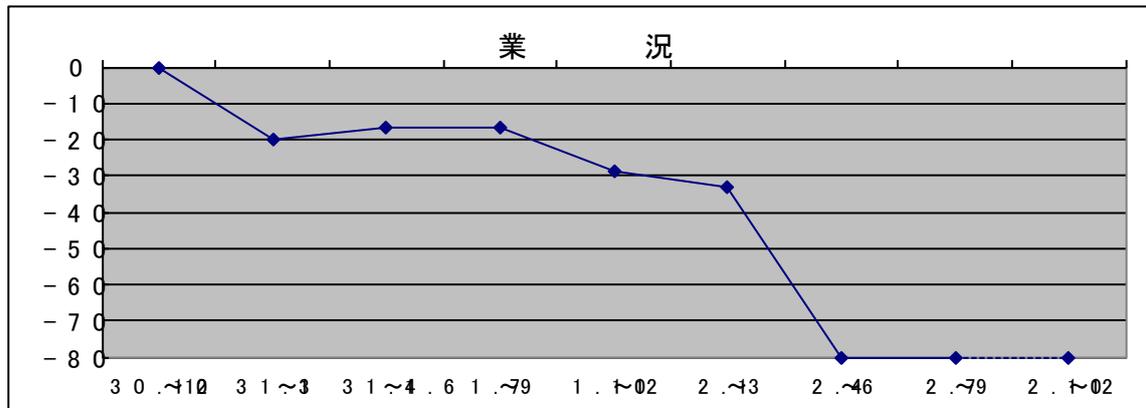
来期（R2.10月～12月）も新型コロナウイルス感染症の影響により各種イベント・催事の中止が予想されることや海外観光客の入国制限が続く見込みから、業況D.I.は厳しい水準で推移するものと予想している。

《業績判断D.I.の推移》

	平成30年	平成31年（令和1年）				令和2年				見通し
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
業況	△11.1	△5.6	△22.2	△17.6	△5.6	△5.6	△94.4	△93.3	△93.3	
売上	△5.6	△5.6	△5.6	0.0	△5.6	△5.6	△88.9	△46.7	△40.0	
収益	0.0	0.0	△11.1	0.0	△5.6	△5.6	△88.9	△53.3	△46.7	
資金繰り	0.0	△5.6	△38.9	0.0	△11.1	△11.1	△61.1	△20.0	△20.0	
人手	△5.6	△11.1	△11.1	0.0	5.6	5.6	5.6	0.0	0.0	
設備	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.6	0.0	0.0	

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞・減少	25.0%	販路を広げる	25.0%
地場産業の衰退	25.0%	提携先を見つける	22.5%
輸入製品との競争の激化	17.9%	情報力を強化する	17.5%

能登地区の木材業



【概況】

前回、今期（R2.7月～9月）業況D.I.が回復すると予想を立てたが、住宅借入金等特別控除の特例期間が令和2年9月末で終了することの駆け込み需要も芳しくなく、業況D.I.は横這いの結果となった。地元木材入荷量・外材入荷量はともに減少しており、国内同業者間の競争が激化している。木材単価は前期に比較して概ね上昇しているが、来期業況D.I.も横這いでの推移を予想している。

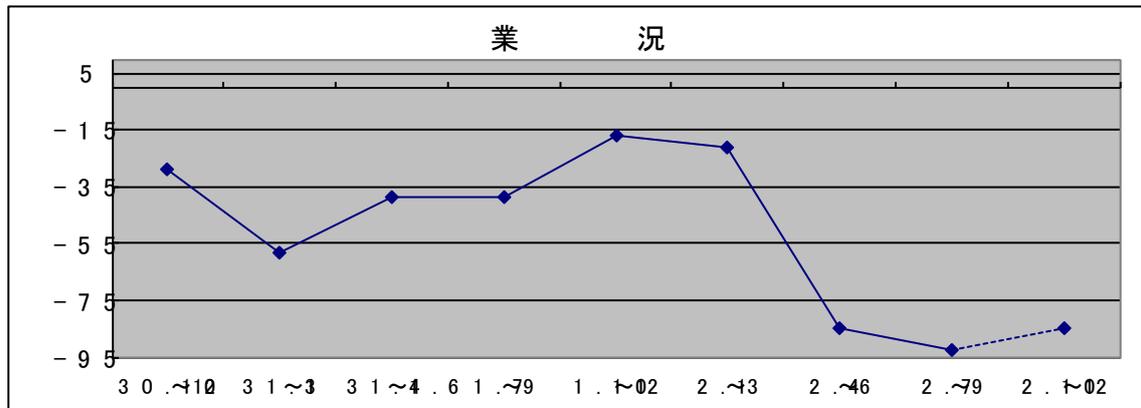
経営上の問題点として「売上の停滞・減少」が前回27.3%から今回37.5%、「輸入製品との競争の激化」が前回18.2%から今回25.0%に上昇。双方ともに市場の停滞を強く意識した結果となっている。

《業績判断D.I.の推移》

	平成30年	平成31年(令和1年)				令和2年			見通し
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
業況	0.0	△20.0	△16.7	△16.7	△28.6	△33.3	△80.0	△80.0	△80.0
売上	0.0	△33.3	△16.7	0.0	△28.6	△33.3	△80.0	△80.0	△60.0
収益	0.0	△33.3	△16.7	0.0	△28.6	△33.3	△80.0	△80.0	△60.0
資金繰り	0.0	16.7	△16.7	△16.7	△28.6	△16.7	△60.0	△20.0	△20.0
人手	△20.0	△16.7	0.0	0.0	△14.3	0.0	△20.0	0.0	0.0
設備	△20.0	△16.7	△16.7	△16.7	0.0	△16.7	△50.0	0.0	0.0

経営上の問題点		当面の重点施策(経営のポイント)	
売上の停滞・減少	37.5%	提携先を見つける	35.3%
輸入製品との競争の激化	25.0%	販路を広げる	17.6%
同業者間の競争の激化	12.5%	経費を削減する	17.6%

能登地区の建具業



【概 況】

コロナウイルス対策用のパーティションの需要が好調であり、売上・収益・資金繰りは大幅に回復。来期（R2.10月～12月）もその3項目が回復する見通しをしている。

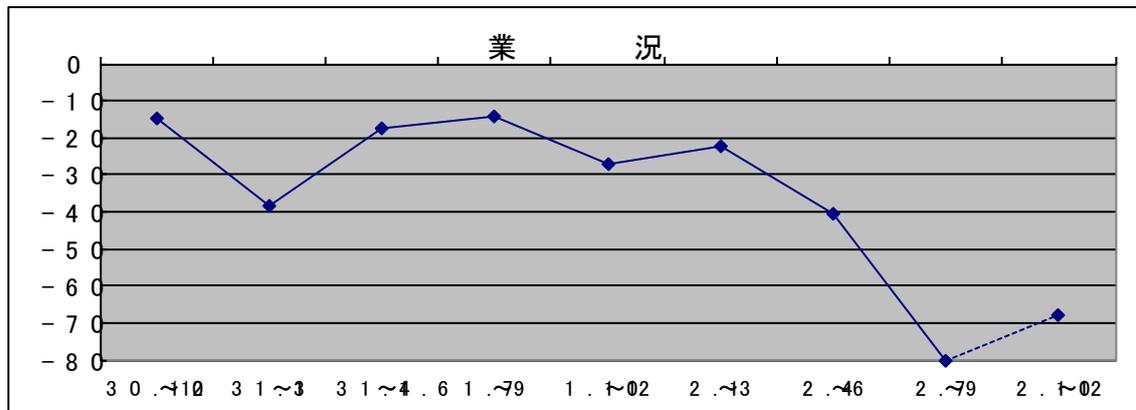
建具業界の景気がコロナ禍以前から悪く、コロナの影響で悪化したものが今期回復したとの見方から、前期に比べ売上・収益は回復したが、業況はコロナ禍以前に比べて悪化していると回答した企業の割合は増加した。経営上の問題点として「売上の停滞・減少」、「同業者間の競争の激化」を挙げる比率がいずれも25%を超えた。業況D.I.は前期（R2.4月～6月）△84.6に比べて今期△92.3と悪化した。来期はやや回復すると予想している。

《業績判断D.I.の推移》

	平成30年	平成31年(令和1年)				令和2年			見通し
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
業 況	△28.6	△58.3	△38.5	△38.5	△16.7	△21.4	△84.6	△92.3	△84.6
売 上	△42.9	△66.7	△38.5	△38.5	△16.7	△21.4	△84.6	△7.7	0.0
収 益	△42.9	△66.7	△38.5	△38.5	△16.7	△21.4	△84.6	△7.7	0.0
資金繰り	△7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	△76.9	△7.7	0.0
人 手	△7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
設 備	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞・減少	27.8%	経費を削減する	26.2%
同業者間の競争の激化	25.0%	情報力を強化する	16.7%
下請の確保難	16.7%	販路を広げる	14.3%

能登地区の織布業



【概況】

今期（R2.7月～9月）業況D.I.は△80.0（前期△40.7）と大幅な悪化を示した。コロナウイルスの影響が大きく、人手不足は解消されたが先行きの不透明さから設備投資等の動きは少ない。

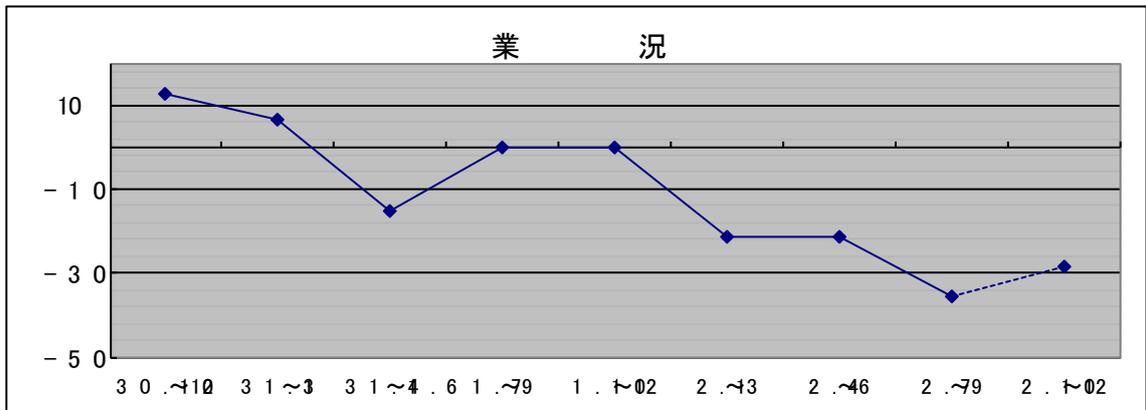
今期の業況が底であるとの期待を含めた見方から、来期（R2.10月～12月）は売上・収益・資金繰りが回復し、業況D.I.は回復するとの見通しをたてている。コロナウイルスの収束時期が分からない状況が続いており、動向に注視が必要である。

《業績判断D.I.の推移》

	平成30年	平成31年(令和1年)				令和2年				見通し
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
業況	△14.8	△38.5	△17.2	△14.3	△26.9	△22.2	△40.7	△80.0	△68.0	
売上	0.0	△38.5	△13.8	△7.1	△19.2	△22.2	△48.1	△64.0	△16.0	
収益	△3.7	△38.5	△13.8	△7.1	△19.2	△18.5	△48.1	△60.0	△16.0	
資金繰り	△11.1	△19.2	△6.9	△10.7	△15.4	△11.1	△22.2	△24.0	△12.0	
人手	△11.1	△3.8	△17.2	△17.9	△11.5	△11.1	0.0	0.0	0.0	
設備	△3.7	3.8	△10.3	△7.1	△7.7	△7.4	△7.4	△4.0	0.0	

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞・減少	24.4%	提携先を見つける	30.2%
輸入製品との競争の激化	20.9%	販路を広げる	25.4%
利幅の縮小	8.1%	経費を節減する	14.3%

能登地区の繊維・雑品業



【概 況】

今期（R 2.7月～9月）業況D.I.は△35.7と悪化を示し、売上と収益は横這いの結果となった。

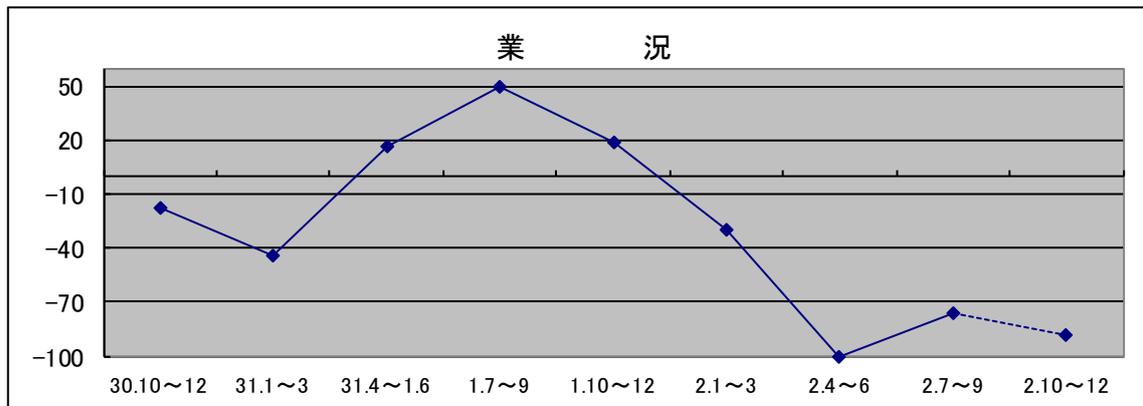
今般のコロナウイルスによるマスクの特需が一旦沈静化し、業界としては医療向けの特高機能繊維に関わるゴム入り細巾織物製造は安定しているが、一般向けの商品については厳しい状況が続き、格差の拡大が進み業況が悪化したとする先が増加している。来期（R 2.10月～12月）の業況D.I.については、例年収益が回復する時期であることから△28.6と若干の回復を予想している。

《業績判断D.I.の推移》

	平成30年	平成31年(令和1年)			令和2年			見通し	
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
業況	12.5	6.7	△15.4	0.0	0.0	△21.4	△21.4	△35.7	△28.6
売上	25.0	0.0	0.0	7.7	△7.1	△28.6	△21.4	△21.4	△21.4
収益	6.2	△6.7	△7.7	△7.7	0.0	△21.4	△21.4	△21.4	0.0
資金繰り	△12.5	△6.7	0.0	△7.7	△7.1	△7.1	△7.1	△14.3	△7.1
人手	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0
設備	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞・減少	22.2%	新製品・技術を開発する	54.2%
輸入製品との競争の激化	22.2%	販路を広げる	29.2%
工場・機械の狭小・老朽化	13.0%	経費を節減する	20.8%

能登地区の観光業



【概 況】

前期（R 2.4月～6月）は新型コロナウイルス感染症の影響により業況D.I.が△100.0という例のない悪化を示したが、今期（R 2.7月～9月）はGo Toキャンペーン等の効果で国内の観光客に動きが戻ってきたことから、売上・収益・資金繰りで改善し、業況D.I.は△76.5まで回復した。

しかし未だ海外からの入国制限が解除されておらず、解除予定も立っていないため、国外観光客についてはインバウンドが見込めないこと、冬の時期にかけて国内観光客も減少するとの予想から次期業況D.I.は△88.2と再び悪化し、売上・収益も悪化するとの見通しをしている。

《業績判断D.I.の推移》

	平成30年	平成31年（令和1年）				令和2年				見通し
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
業 況	△17.6	△44.4	16.7	50.0	18.8	△29.4	△100.0	△76.5	△88.2	
売 上	△52.9	△38.9	44.4	57.1	△6.2	△35.3	△100.0	△11.8	△52.9	
収 益	△47.1	△29.4	33.3	57.1	△6.2	△35.3	△100.0	△11.8	△47.1	
資金繰り	△5.9	△16.7	△22.2	△7.1	0.0	△35.3	△73.3	△29.4	△35.3	
料金価格	5.9	0.0	5.6	0.0	12.5	5.9	△13.3	5.9	△5.9	
設 備	△5.9	△11.1	△11.1	△21.4	△6.2	△11.8	6.7	△5.9	0.0	

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
利幅の縮小	27.7%	提携先を見つける	26.8%
売上の停滞・減少	23.4%	経費を削減する	22.0%
商圈人口の減少	14.9%	宣伝・広告を強化する	17.1%

主要経済指標

◆ 労働

(時間)

	有効求人倍率 (季節調整値)	実質労働時間	
		うち所定外	
30年 10月	2.02	149.7	10.5
30年 11月	2.06	154.6	11.3
30年 12月	2.07	147.6	10.4
31年 1月	1.99	133.4	9.5
31年 2月	1.95	142.5	10.0
31年 3月	1.91	143.5	10.3
31年 4月	1.95	148.8	10.4
1年 5月	1.88	137.1	9.7
1年 6月	1.97	148.0	9.8
1年 7月	2.00	150.3	9.8
1年 8月	2.03	141.8	9.4
1年 9月	2.00	146.0	10.2
1年 10月	1.92	146.5	10.1
1年 11月	1.89	149.4	10.1
1年 12月	1.89	147.7	9.7
2年 1月	1.73	134.4	8.2
2年 2月	1.70	142.8	9.0
2年 3月	1.59	143.2	9.3
2年 4月	1.46	143.8	8.2
2年 5月	1.32	124.7	5.8
2年 6月	1.19	140.0	6.2
2年 7月	1.15	142.0	7.2

資料: 石川県企画開発部統計課

◆ 消費者物価指数

※平成28年より2015年(平成27年)を100としています。

	総合	前年同月比
30年 10月	102.9	1.9
30年 11月	102.5	1.0
30年 12月	102.2	0.4
31年 1月	102.0	0.0
31年 2月	101.9	-0.1
31年 3月	102.5	0.6
31年 4月	102.9	1.1
1年 5月	102.9	0.8
1年 6月	102.4	0.5
1年 7月	102.3	0.3
1年 8月	102.8	0.1
1年 9月	102.7	0.2
1年 10月	103.3	0.4
1年 11月	103.2	0.7
1年 12月	103.1	0.9
2年 1月	103.0	0.9
2年 2月	102.6	0.7
2年 3月	102.7	0.2
2年 4月	102.5	-0.4
2年 5月	102.7	-0.2
2年 6月	102.7	0.3
2年 7月	102.6	0.3
2年 8月	102.6	-0.2

資料: 石川県企画開発部統計課

◆ 信用保証

(百万円)

	保証承諾		保証債務	
	件数	金額	件数	金額
31年 1月	184	2,429	15,480	109,852
31年 2月	254	2,061	15,311	109,014
31年 3月	303	2,902	15,003	107,844
31年 4月	266	2,305	14,870	107,380
1年 5月	265	2,147	14,723	106,560
1年 6月	318	2,501	14,563	105,931
1年 7月	315	3,079	14,403	105,560
1年 8月	291	2,371	14,280	105,204
1年 9月	307	2,493	14,167	104,868
1年 10月	253	1,899	14,016	104,188
1年 11月	292	3,129	13,873	103,849
1年 12月	321	3,060	13,750	103,852
2年 1月	223	2,433	13,699	103,526
2年 2月	239	2,216	13,597	102,959
2年 3月	456	5,922	13,470	103,826
2年 4月	819	17,705	13,801	112,928
2年 5月	1,308	24,918	14,410	127,514
2年 6月	2,432	39,481	15,797	158,744
2年 7月	3,047	60,623	17,670	197,906
2年 8月	1,697	31,987	19,261	234,113

資料: 石川県信用保証協会

◆ 企業倒産件数

(百万円)

	件数	金額
30年 12月	2	36
31年 1月	9	571
31年 2月	5	1,931
31年 3月	5	364
31年 4月	6	109
1年 5月	7	415
1年 6月	7	107
1年 7月	9	281
1年 8月	6	591
1年 9月	8	417
1年 10月	5	414
1年 11月	5	601
1年 12月	3	30
2年 1月	8	1,916
2年 2月	8	910
2年 3月	4	198
2年 4月	5	471
2年 5月	4	1,635
2年 6月	7	644
2年 7月	10	1,210
2年 8月	3	718

資料: (株)東京商工リサーチ

主要経済指標

◆ 建築着工

(千㎡、百万円)

	建築着工総数		うち住宅着工	
	床面積	工事予定額	戸数(戸)	床面積
30年 9月	103	19,681	725	66
30年 10月	143	25,960	723	66
30年 11月	128	22,801	660	69
30年 12月	89	15,101	606	54
31年 1月	78	16,724	490	47
31年 2月	91	17,691	727	74
31年 3月	116	24,600	732	76
31年 4月	162	30,811	782	75
1年 5月	103	17,880	569	59
1年 6月	120	21,572	1,001	86
1年 7月	97	19,022	689	62
1年 8月	113	22,725	612	60
1年 9月	100	15,630	598	57
1年 10月	97	17,816	745	66
1年 11月	141	29,300	740	70
1年 12月	98	27,393	552	50
2年 1月	76	13,352	456	44
2年 2月	75	1,647	399	36
2年 3月	194	3,733	605	59
2年 4月	95	1,869	569	56
2年 5月	96	2,047	456	47
2年 6月	118	2,673	647	58
2年 7月	78	1,514	710	57

資料:国土交通省(石川県内)

◆ 公共工事請負金額

(件、百万円)

	件数	請負金額
	30年 9月	536
30年 10月	545	13,762
30年 11月	466	7,732
30年 12月	370	6,427
31年 1月	113	10,977
31年 2月	513	7,774
31年 3月	229	8,061
31年 4月	447	51,963
1年 5月	437	28,033
1年 6月	545	14,207
1年 7月	628	19,993
1年 8月	426	10,617
1年 9月	506	15,203
1年 10月	538	15,128
1年 11月	421	8,984
1年 12月	337	6,335
2年 1月	271	6,562
2年 2月	224	7,833
2年 3月	124	3,595
2年 4月	565	45,139
2年 5月	372	20,575
2年 6月	574	17,880
2年 7月	637	17,721
2年 8月	505	11,694

資料:東日本建設業保証(株)(石川県内)

◆ 新車登録台数

(台)

	普通自動車	軽自動車
	30年 9月	3,401
30年 10月	3,182	1,598
30年 11月	3,285	1,884
30年 12月	2,573	1,361
31年 1月	2,400	1,506
31年 2月	3,547	1,905
31年 3月	5,850	2,901
31年 4月	2,511	1,570
1年 5月	2,731	1,608
1年 6月	3,271	1,780
1年 7月	3,505	1,701
1年 8月	2,563	1,601
1年 9月	3,702	2,183
1年 10月	2,037	1,322
1年 11月	2,618	1,401
1年 12月	2,412	1,201
2年 1月	2,199	1,338
2年 2月	3,132	1,818
2年 3月	4,963	2,601
2年 4月	1,657	941
2年 5月	1,611	713
2年 6月	2,244	1,465
2年 7月	2,649	1,690
2年 8月	1,918	1,383

資料:石川県自動車販売店協会

◆ 温泉地宿泊数

(人)

	和倉温泉	輪島温泉
	30年 10月	79,254
30年 11月	84,619	17,300
30年 12月	74,360	10,800
31年 1月	54,447	9,200
31年 2月	60,461	9,700
31年 3月	74,459	12,100
31年 4月	58,625	13,200
1年 5月	63,596	16,700
1年 6月	60,805	13,300
1年 7月	58,182	14,100
1年 8月	92,608	20,700
1年 9月	65,094	14,600
1年 10月	67,084	15,400
1年 11月	80,191	16,800
1年 12月	67,743	11,200
2年 1月	53,477	8,800
2年 2月	53,368	10,400
2年 3月	33,444	6,600
2年 4月	5,366	1,300
2年 5月	267	2,400
2年 6月	12,897	5,300
2年 7月	46,678	9,800
2年 8月	55,528	13,700

資料:北陸観光協会、和倉温泉観光協会
輪島市観光協会

◆ 織物生産高

(千㎡)

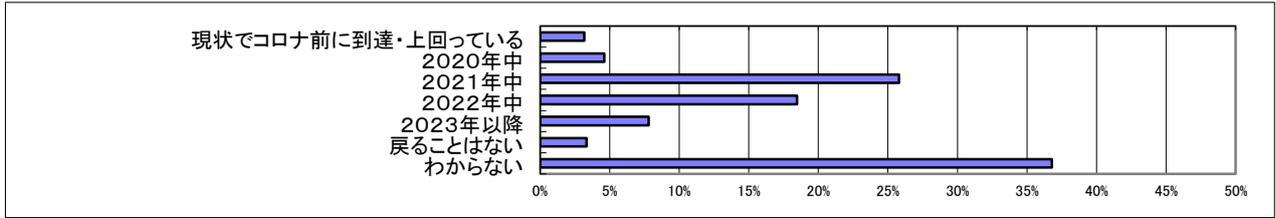
	合計
30年 10月	23,621
30年 11月	22,945
30年 12月	21,010
31年 1月	21,040
31年 2月	21,580
31年 3月	23,248
31年 4月	22,002
1年 5月	22,017
1年 6月	22,592
1年 7月	23,924
1年 8月	20,338
1年 9月	22,278
1年 10月	24,547
1年 11月	22,574
1年 12月	21,202
2年 1月	19,145
2年 2月	21,066
2年 3月	20,459
2年 4月	19,164
2年 5月	16,954
2年 6月	18,402
2年 7月	17,382
2年 8月	

資料:石川県企画開発

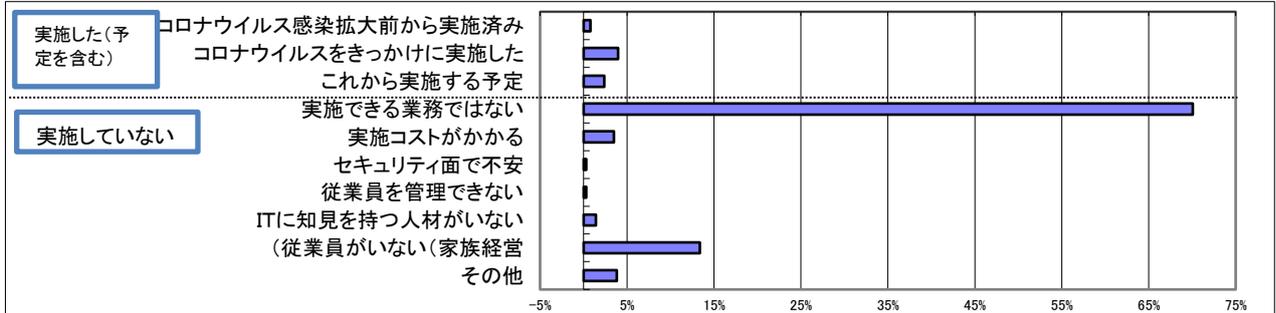
【新型コロナウイルスの感染拡大を受けた中小企業の対応について】

特別調査

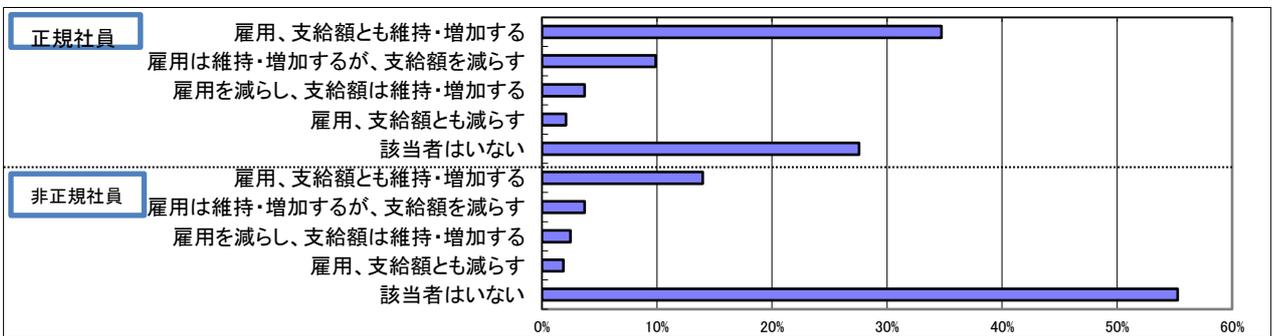
問1. 貴社では、売上がコロナ前の水準に回復する時期を、いつ頃と見込んでいますか。



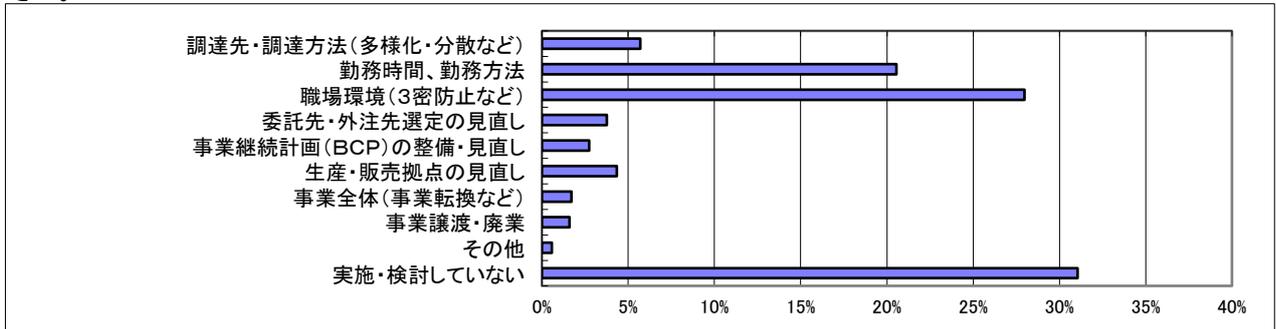
問2. 貴社では、テレワークや在宅勤務、リモートワークといった、出社を必要としない就労形態を実施(予定を含む)していますか。実施している方はその理由を、実施していない方はその理由をお答えください。



問3. 貴社では、今現在、雇用ならびに1人当たり支給額(給与、手当、賞与等)に関する方針について、どのようにお考え(予定を含む)ですか。正規社員、非正規社員、それぞれお答えください。



問4. 貴社では、今現在、今後の事業の見直しについて、実施・検討していることはありますか。最大3つまでお答えください。



問5. 貴社では、今現在、営業拡大の観点で実施・検討していることはありますか。実施・検討している方は、最大3つまで選んでお答えください。

